



一隅を照らす運動総本部だより
No. 41



一隅を照らす運動ホームページアドレス
<http://ichigu.net>

第15回 心のつどいin比叡山

7月8・9日 比叡山延暦寺会館



第十五回

「心のつどいin比叡山」(一隅を照らす運動総本部主催)を比叡山延暦寺会館で開催。七月八日、九日の一泊二日の日程で、一般公募で募った男女二十九名が参加した。

はじめに、横山照泰同運動総本部長、今出川行戒延暦寺参拝部長から挨拶、日程説明や延暦寺会館での注意事項等の説明があり、研修会がはじまった。

現在、天台宗では「祖師先徳鑽仰大法会」の間中であり、本年は「恵心僧都一千年御遠忌」、「伝教大師御生誕一千二百五十年」の御祥当年であることから、諸堂参拝として浄土院、恵心堂、恵心僧都墓所等を巡拝した。普段歩き慣れない山道に、参加者は時折疲れた表情を見せながらも、比叡山の自然豊かな雰囲気浸っていた。それぞれの御堂では、参加者全員で『般若心経』、各祖師方の「宝号」をお唱えし、その遺徳を偲んだ。

夕食の後、『法華経』の写経に取り組んだ。参



加者は見慣れない文字や筆を使つての写経に苦戦しながらも、集中して一字一字を丁寧に書き上げていた。

引き続き座談会が開催され、露の団姫師(同運動広報大使)や綾小路乗俊師(同運動企画運営委員)を囲み、様々な話で盛り上がり、一日目の日程が終了した。



普段公開されていない内部を見学することができた。

朝食の後、修験道法流浄光院住職の栢木寛照師を講師に迎え、「このころの時代」と題した講演が

行われた。栢木師は講演の中で伝教大師のみ教えに触れ、特に人材育成の重要性について語られた。自身の活動の一つでもある青少年サイパン島文化交流使節団の派遣も、人づくりへの強い想いから毎年行われており、「より良い社会は、より良い人材から成っており、次代を担う若い世代を育てることこそ大切なことである」との言葉に参加者は熱心に耳を傾けていた。

ある研修生は「あつという間の一泊二日の時間でした。写経や坐禅などの体験を比叡山で出来たことを大変嬉しく思います」と感想を述べており、盛会のうちに幕を閉じた。

■一隅を照らす運動推進大会

○神奈川大会

神奈川教区本部（榎本昇道教区本部長）では、平成二十八年六月八日に川崎市教育文化会館を会場に、一隅を照らす運動神奈川大会として推進大会が開催され、約六百名の参加者が集まった。

今大会では「一千年御遠忌を迎えた恵心僧都」をテーマに開催され、第一



部では「恵心僧都一千年御遠忌法要」が、大導師を榎本教区本部長、副導師を八木廣純教区副所長、小堀光雄教区教学布教法儀研修所長が務め、教区教学布教法儀研修所所員出仕のもと厳修された。

「二十五三昧式」に則った法要は、現在でも「恵心講」として比叡山にて六月十日に厳修されており、普段あまり触れることの出来ない法要に、会場内は厳かな空気に包まれた。

法要に続き、榎本教区本部長の挨拶があり、来賓として横山照泰同運動総本部長より祝辞が述べられた。

また、神奈川教区本部から神奈川県社会福祉協議会と同運動総本部へ募金の寄託が行われ、同運動総本部へは地球救援協力金と平成二十八年熊本地震への募金として多くの浄財が寄せられた。

第二部では、延暦寺一山求法寺住職の武覚超師による「一千年御遠忌を迎えた恵心僧都―その生涯と教え―」と



題した講演が行われた。講演では、恵心僧都源信和尚の生涯から教えや実践等を具体的に話され、参加者は熱心に耳を傾けていた。

今大会を通して、参加者は恵心僧都のご遺徳を偲び、より一層信仰心を深め、盛会のうちに大会は幕を閉じた。

○信越大会

信越教区本部(岩田真亮教区本部長)では、平成二十八年六月十一日に善光寺(長野市)の善光寺事務局を会場に一隅を照らす運動推進大会信越大会を開催し、百五十名を超す参加者が集ま



った。

第一部の始めに、岩田教区本部長を導師に参加者全員で法楽が行われた。

続いて、岩田教区本部長より主催者の挨拶、来賓の小山健英信越教区布教師会会長より祝辞があった。

その後、一隅を照らす運動について、横山照泰同運動総本部長より参加者に向けて講話が行われた。

第二部では、慶應義塾大学理工学部教授であり真田家十四代当主でもある

真田幸俊先生を講師に迎え「兄から見た幸村」と題して、記念講演が行われた。昨今話題となっている真田家の歩みを、身内からの視線を交えて解説され、その内容に会場からは驚嘆の声が漏れていた。

講演終了後、吉澤敬順信越教区本部長より閉会の辞が述べられ、大会は幕を閉じた。

○三岐大会

三岐教区本部(森喜良教区本部長)では、平成二十八年六月十五日に岐阜



県関市の宗休寺（通称・関善光寺）を会場に三岐教区一隅を照らす運動推進大会を開催し、住職や檀信徒二百二十名が参加した。

第一部では、はじめに宗休寺住職佐藤舜海師導師のもと、本堂にて法楽が執り行われた。法要後に佐藤住職から挨拶があり、引き続き横山照泰同運動総本部長より本運動の主旨について話がなされた。

第二部では、会場を書院へ移し、同運動広報大使である露の団姫師による



落語会が催された。多くの観衆が訪れたため会場は瞬く間に満席になり、急遽屋外に席が設けられるほどであった。演目は、露の団姫師創作の仏教落語「私は君をホットケない」が披露され、落語を通して聞く仏の教えに、観衆の笑いは絶えなかった。

最後に大会開催中に集められた、参加者からの浄財を横山同運動総本部長へ寄託されて閉会した。

○兵庫大会

兵庫教区本部（荒樋勝善教区本部長）



では、平成二十八年六月二十日に豊岡市のHOTEL KOSHIOを会場に、第四十七回兵庫教区檀信徒会総会並びに一隅を照らす運動推進兵庫大会を開催し、檀信徒ら約三百名が参加した。

はじめに、荒樋教区本部長を導師に法楽が行われ、荒樋教区本部長から主催者挨拶、続けて横山照泰同運動総本部長より祝辞が述べられた。

檀信徒会総会の後、推進大会が行われ、まずはじめに一隅を照らす運動実践発表が行われた。檀信徒三名が日頃から取り組んでいる実践活動が発表された。

その後、実践者六名に横山総本部長より総本部長賞の表彰が行われた。

続いて、延暦寺一山円覚院住職の宮本祖豊師による「比叡山の修行と伝教大師の御心」と題した講演が行われた。出家得度に至るまでの経緯や師僧との出会い、十二年籠山行での日常生活も二十一年に亘る比叡山での修行生活をもとに話され、参加者は熱心に聞き入っていた。

大会は木下政夫教区第六部檀信徒会副会長の閉会の辞で幕を閉じた。

○東京大会



東京教区本部(杜多徳雄教区本部長)では、平成二十八年六月二十三日に浅草公会堂を会場に、一隅を照らす運動東京大会が開催され、檀信徒ら約千名が参加した。

第一部の法要は、輪王寺門跡・寛永寺住職神田秀順大僧正を導師に、教区寺院の代表、天台聲明音律研究会、天台雅楽会らが出仕して執り行われた。

法要の前後には、叡山講福聚教会東京地方本部会員による和讃が詠唱され、会場に荘厳な雰囲気を添えていた。

法要の後、神田大僧正の挨拶、杜多教区本部長の挨拶があり、続いて来賓の同運動理事長の木ノ下寂俊宗務総長、副理事長の小堀光實延暦寺執行、同運動総本部の横山照泰総本部長、それぞれより祝辞が述べられた。

最後に杜多教区本部長より、功績顕著である檀信徒へ表彰状が授与され、第一部は終了した。

第二部では、延暦寺一山円竜院住職の宮本祖豊師を講師に迎え、「比叡山



の修行と伝教大師の御心」と題して講演が行われた。

自身の出家得度の経緯や「十二年籠山行」、二十年にも渡る比叡山の修行を通して感じ得た伝教大師の教えを話され、参加者らはその体験談に聞き入っていた。

結びに、關口晃成教区副本部長より閉会の挨拶があり、第四十六回を迎える一隅を照らす運動東京大会は、幕を閉じた。

○東海大会

東海教区本部(柴田真成教区本部長)では、平成二十八年六月二十五日に愛知県名古屋市の覚王山日泰寺普門閣を会場に、東海教区檀信徒会総会並びに一隅を照らす運動東海教区推進大会が開催され、住職・寺族・檀信徒ら約二百名の参加者が集まった。

第一部では、檀信徒会総会が行われ、まず柴田教区本部長導師のもと法要が行われ、神谷雍彦教区檀信徒会会長より挨拶があった。

檀信徒会総会での議事終了後、延暦寺一山戒光院住職の高山良彦師による「母の心、子の心〜恵心僧都一千年御遠忌を迎えて〜」と題した講演が行わ

れた。

天台宗祖師先徳鑽仰大法会の期間中であることから、今回の講演では恵心僧都の生涯や教えを中心に、母親との関係について詳しく話された。

第二部は、一隅を照らす運動推進大会として、安藤誠亮教区本部事務局長から開会の辞があり、続いて柴田教区本部長より挨拶、横山照泰同運動総本部長より祝辞が述べられた。

その後、「聲明と雅楽」と題した公演が行われ、東海教区天台仏教青年会



僧侶による天台声明とアユチ雅楽会による雅楽の演奏が披露された。普段あまり触れることのない声明と雅楽のコラボレーションに、参加者は真剣に耳を傾けていた。

講演では、インド禅定林住職のサンガラトナ・法天・マナケ師による「インド禅定林大本堂落慶十周年を迎えて」と題した講演が行われた。

サンガ師は、インドという国の現状や自身が来日し修学に励んだ日々、帰



国してからの活動などを話され、参加者はとても興味深そうに聞き入っていた。

大会の終わりに「比叡山仏道讃仰和讃」を参加者全員で唱え、盛会のうちに大会は幕を閉じた。

○福島大会

福島教区本部（矢島義謙教区本部長）では、平成二十八年七月十二日に福島県いわき市のスパリゾートハワイアン





ズを会場に、福島教区檀信徒会総会並びに一隅を照らす運動推進福島大会が開催され、約二百六十名の参加者が集まった。

最初に檀信徒会総会が開催され、矢島教区本部長を導師に法楽が執り行われた。続いて教区檀信徒会眞鍋幸意会長（同運動副会長）の挨拶、矢島教区本部長並びに林光俊天台宗議会議員から来賓挨拶が述べられた。

総会終了後、休憩をはさみ一隅を照らす運動推進大会が行われた。大会で

は、天台宗参務阿部昌宏総務部長を講師に迎え「天台宗祖師先徳鑽仰大法会『国宝根本中堂大改修に向けて』」と題し、講演が行われた。

講演では、自身の体験を交え、寺院と檀信徒の関わり方に触れ、その縁を導いてくれた天台宗の祖師方の教えや偉業について、比叡山延暦寺・根本中堂の重要性について話された。

最後に、当日会場にて集められていた熊本地震の義援金が矢島教区本部長から阿部総務部長へ寄託され、閉会した。

○九州東大会

九州東教区本部（秋吉文隆教区本部長）では、平成二十八年九月十六日に九州東教区一隅を照らす運動推進大会を大分県宇佐市宇佐神宮参集殿において開催し、二百名を越す参加者が集まった。

推進大会に先立ち宇佐神宮の本殿において「法華懺法」の法要が奉修され、会場は厳かな空気に包まれた。古くから大分県国東半島の寺院との関わりが深い宇佐神宮での仏教法要ということ、参加者は神仏習合の文化に触れ、神仏とご縁を結ぶ機会となったのでは



ないか。

法要終了後、宇佐神宮参集殿に会場を移し、推進大会が開催された。

はじめに、秋吉教区本部長、小野崇之宇佐神宮宮司から開会にあたり挨拶があった。

引き続き、横山照泰同運動総本部長より実践者表彰が行われ、今大会では十一名の方々が総本部長賞を受賞され、代表七名へ授与された。

公演では、落語家の露の団姫師（同運動広報大使）による落語の公演が行われた。創作落語「仏は君をホツケない」が披露され、仏教の教えを織り交ぜたユーモアあふれる落語に会場は大きな笑いに包まれ、大会は盛会のうちに幕を閉じた。

また、当日会場では多くの浄財が寄せられ地球救援事務局に寄託された。



一隅を照らす運動ニュース

◎「一隅を照らす運動」理事会を開催



平成二十八年七月五日、天台宗務庁（滋賀県大津市）において平成二十八年度第一回「一隅を照らす運動」理事会が開催された。本理事会では、平成二十七年一隅を照らす運動の事業報告、各会計の決算等が審議・承認された。

また、今回の理事会において役員の変更があり、副会長に山田俊和師（陸奥教区中尊寺住職・再任）・鳥井信吾氏（サントリーホールディングス株式会社代表取締役副会長・新任）、顧問に東伏見慈光師（京都教区青蓮院門跡住職・再任）が承認された。

◎日本ユニセフ協会へ支援金を寄託

平成二十八年八月四日、比叡山宗教サミット二十九周年「世界平和祈りの集い」（比叡山延暦寺）に先立ち、日本ユニセフ協会への募金寄託式が行われた。

この募金は、毎年八月に行われる「天台青少年比叡山の集い」に参加したり





1ダーと研修生の小学生が出した募金と、全国から寄せられた浄財を合わせたもので、総額は三百万円。

寄託式で

は、天台青少年比叡山の集い参加研修生の代表より、大樹孝啓一隅を照らす運動会長へ目録が手渡され、引き続き大樹会長から早水研日本ユニセフ協会専務理事に目録が手渡された。

◎聖エジディオ共同体に支援金を贈呈

平成二十八年九月十八日から二十日まで、イタリアのアッシジで第三十回「世界宗教者平和の祈りの集い」が聖エジディオ共同体の主催にて開催された。

一隅を照らす運動総本部では、世界の子どもたちの福祉と教育向上を願って、聖エジディオ共同体へ支援を行っている。

本年も十八日に天台宗代表使節団の



田中祥順副事務局長（天台宗参務財務部長）より、聖エジディオ共同体アジア地域責任者アグステイノ・ジョバニョーリ氏に支援金として三十万円を寄託した。

また、平成二十八年イタリア中部地震災害の支援金壱百万円の寄託も併せて行われ、同使節団の阿部昌宏事務局長（天台宗参務総務部長）より、ジョバニョーリ氏に目録が手渡された。

◎一隅フェスティバルin大津港を開催

十月二日、茨城県北茨城市大津町の長松寺にて一隅を照らす運動総本部が主催する「一隅フェスティバルin大津港」が開催された。同フェスティバルは「祈りと癒しと笑いのひととき」をテーマに同運動企画運営委員（見上知正委員長）、信越・埼玉・茨城・群馬・栃木・福島・陸奥、各教区仏教青年会有志の協力を得て行われた。

開会式で横山照泰同運動総本部長よ



り「自然の猛威はいつ起こるかわからない。それ故に私たちは日々、恥ずかしくない生き方をしていかなければならない。素直な気持ちをもって感謝すること、それが信心を深くする。この催しは、東日本大震災被災地におられる皆さんに、『人はひとりではない、皆で手を携えて進んで行ける』ことを伝えたいとの願いから、はじまりました」と開催主旨を述べた。続いて長松寺池田晃隆住職より「震災が起こり、今でも地元に住めない方、供養をする余裕のない方がたくさんいる。寺も同じく被災したが、皆さんのご協力で復興することができ、本日を迎えることができた」と挨拶があった。

フェスティバルでは、はじめに復興



祈願奉納太鼓が泉智仁師により演奏された。自身も震災被災者である福島県出身の泉師は、東日本大震災の復興を願い国内外で演奏活動をされている。その迫力ある演奏に観衆は魅了されていた。

続いて横山総本部長を導師に慰霊・復興祈願法要が厳修された。

その後、群馬天台音楽会による雅楽演奏が披露された。群馬天台音楽会では、天台伝統法要の厳修と日本伝統音楽の継承を目的として、県内外で演奏



活動を行っている。この日も、綾小路乗俊師（同運動企画運営委員）司会のもと、各楽器の特徴や音色の違いを解説、伝統楽曲の演奏のみならず、現代曲をアレンジした演奏も行われた。

休憩をはさみ、復興支援寄席として嘶家の古今亭菊之丞師匠と三遊亭好の助氏による落語、仙若氏による太神楽が披露された。観衆からは大きな笑いと拍手が巻き起こっていた。

また会場内では終日、一行写経・写仏を希望する参加者に、仏青会員が指導していた。

最後に横山総本部長から、北茨城市社会福祉協議会大津支部長の小松嘉洋氏に東日本大震災被災地支援として義援金三十万円が寄託され、フェスティバルは閉会となった。

・お詫びと訂正

「一隅を照らす運動総本部だよりNo. 四十」中、十九頁の平成二十七年年度地球救援募金ご協力者名簿、指定寄付、平成二十七年年度台風第十八号等大雨災害義援金の名簿一覧に「●九州東 ○第一教部 東明寺」とありますが、「●九州西 ○筑前部 東明寺」と訂正し、ここにお詫び申し上げます。

「きらめき」 表紙写真を 募集!

「きらめき」に
あなたが撮影した写真を
お送りいただけませんか?



▲イメージ

一隅を照らす運動機関誌「きらめき」では、表紙を飾る写真を募集しております。
「一隅を照らす運動 実践3つの柱」よりテーマをお選びいただき、
動物、植物、風景等を被写体として撮影してください。

一隅を照らす運動 実践3つの柱

いのち
「生命」

あらゆる命を大切にしよう

ほうし
「奉仕」

みんなのために行動しよう

きょうせい
「共生」

自然の恵みに感謝しよう

- 応募方法：住所・氏名・年齢・選択したテーマ・写真の説明や紹介文を記載の上、郵送またはEメールにてお送りください。
- 応募締切：平成29年3月末日 ● 掲載時期：平成29年度「きらめき」No.49 夏号以降を予定（年4回発行 各10万部）

※注意事項

- 写真は2MB程度のjpgデータ又はL版プリントにてお送りください。● 写真の返却はいたしませんのでご了承ください。
- 著作権・肖像権に抵触する写真は、ご遠慮ください。● 人物撮影の際は、必ず本人の許可を得てください。
- 採用結果は、誌面掲載をもって代えさせていただきます。● その他、注意事項の詳細につきましては、HP (<http://ichigu.net/>)にてご確認ください。

皆様のご応募をお待ちしています。

一隅を照らす運動総本部

〒520-0113 滋賀県大津市坂本4-6-2 天台宗務庁内
URL <http://ichigu.net> E-mail info@ichigu.net
Tel (077) 579-0022 Fax (077) 579-2516



一隅を照らす運動キャラクター
しょうくうさん

